

# 事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の  
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

## 東京都福祉サービス第三者評価(2023年度) 評価結果報告書

2024年2月13日

社会福祉法人森友会  
げんきな森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1  
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03 -

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
②	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営	
③	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営	
④	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営	
⑤		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営	
⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営	

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)			
福祉サービス種別	認可保育所		
評価対象事業所名称	げんきな森保育園		
事業所連絡先	〒	184-0003	
	所在地	東京都小金井市緑町3-9-21	
	TEL	042-316-5030	
事業所代表者氏名	猿渡 太育		
契約日	2023年	7月	1日
利用者調査票配布日(実施日)	2023年	10月	6日
利用者調査結果報告日	2023年	12月	19日
自己評価の調査票配布日	2023年	10月	6日
自己評価結果報告日	2023年	12月	19日
訪問調査日	2023年	12月	25日
評価合議日	2023年	12月	25日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面・ポスターの配信または配付・掲示等により保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と提出促進を兼ねたチラシを全対象者に配信または配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所には開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。		

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心身の調和的発達」を促す保育</li> <li>・「基本的な生活習慣」の育成を進める保育</li> <li>・「集団への参加と自主協調の態度」を養う保育</li> <li>・「正しい言語生活や自然・社会現象に対する興味と関心」を育てる保育</li> <li>・「子どもらしい表現によって、生きる力の基礎」を培う保育</li> </ul>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p>
	<p>子どもを尊厳のある人間としてきちんと向き合える人、いつもやさしい笑顔で子どもに無限の愛を与え、見守っていける人、そして子どものために自分を磨き、子どもたちとともに成長し続けることのできる人。そんな人を求めています。</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p>
	<p>法人理念を理解し、保育のプロとして子どもたちの日々の成長、自主性を促す環境を整え受容的に関わること。また、専門性向上のための自己研鑽を怠らないこと。</p>

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯68(在籍児童数77)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	77
利用者家族総数(世帯)	68
共通評価項目による調査対象者数	68
共通評価項目による調査の有効回答者数	55
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	80.9

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」65.5%・「満足」25.5%の計91%と高い値を得ており、設問別でも「発達に配慮した保育活動」「食事」「急な残業等への配慮」など、全17問中13問で80%台～100%の高い支持を得ている。自由意見では「今の園の方針や姿勢を続けてもらいたい」「このまま変わらず続いてくれるとありがたい」「園の教育に大変満足しており、安心して子どもを通わせられるので本当に感謝しています」「子どもの気持ちやペースに合わせて食事・睡眠・活動をさせてくれ、眠たくない時は遊ばせ、食べたくない時は時間を置いてくれるなど、子どもの気持ちや自主性を尊重している」「子どもの自主性や気持ちに寄り添い、子どもにとって居心地のよい空間であり、先生たちは明るく穏やかな人が多く、雰囲気の良い園だ」「先生たちは子どもに対してとても優しく温かい雰囲気です。毎日とても楽しそうにのびのびと過ごせており、異年齢保育で年上・年下の子たちと関わりながらいろいろなことを学んで成長している」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては、日常の保育や保健衛生に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	54	1	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が98.2%、「どちらともいえない」が1.8%となっている。自由意見は21件で、「教えていない言葉を話すようになったり、できなかった片づけや手洗いができるようになる等、保育園での経験が発達につながっている」「入園してからの成長や発達をとっても感じ、いつも子どもにも保護者にも寄り添ってもらえるので安心して預けられる」「自主性を大切にしてくれているので保育園に通ってから自立心がかなり成長したと実感している」などが寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	51	4	0	0
「はい」が92.7%、「どちらともいえない」が7.3%となっている。自由意見は19件で、「子どもの自主性を重んじて自由な校風で、入園当初は引っ込み思案な子で心配していたが、先生たちのサポートで積極的な子になった」「通常保育に加え造形や表現・英語など幅広い保育を提供し、偏りない保育を提供してくれている」「皆と同じことを無理にさせるのではなく、自分のやりたいことを自ら選んで活動できる仕組みがとてもよい」などのほか、活動内容のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	54	1	0	0
「はい」が98.2%、「どちらともいえない」が1.8%となっている。自由意見は17件で、「いつも栄養バランスを考えてもらった給食で感謝している」「献立の種類が豊富でイベントメニューなども多く採り入れてくれる」「自分で食べる量を調節しているようので完食できる達成感を感じている様子だ」などのほか、おやつ提供量などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	40	14	1	0
「はい」が72.7%、「どちらともいえない」が25.5%、「いいえ」が1.8%となっている。 自由意見は19件で、「園庭で植物をプランターで育てていたり、公園のお散歩に行ったり、誕生日の時はお花屋さん連れて行ってもらったり、充実している」「園庭があるため、季節ごとの外の空気を感じたり、虫や草木と触れ合う機会がある」「園庭での活動、夏祭りイベントなど、保育園での異年齢の子どもとの関わり等、社会性も身につけている」などのほか、戸外活動等のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	47	0	0	8
有効回答者47人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「連絡すれば快く承をしてくれるので助かる」「時間変更や延長利用など、嫌な顔をせず快く受け入れてくれる」「保育園の対応はきわめて柔軟で、保護者に可能な限り負担をかけないよう配慮してくれていると感じる」「仕事の都合上、その日急に残業ということも多いですが、連絡すると快く延長保育を受けてくれる」「アプリと電話で柔軟に対応してもらうことができ、助かっている」など12件が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	40	12	3	0
「はい」が72.7%、「どちらともいえない」が21.8%、「いいえ」が5.5%となっている。 自由意見は19件で、「設備だけでなく先生たちの報連相がしっかりしていて、何かあった時にどの先生でも話が共有できているので安心できる」「ケガの報告では遊具等に関連するものはないため設備は問題ないと思い、それ以外の対応についても不安はない」のほか、外部侵入対策や保育中の安全管理、設備面、衛生管理や感染症対策等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	50	4	0	1
「はい」が92.6%、「どちらともいえない」が7.4%となっている。 自由意見は10件で、「親が参加する行事のほとんどは土曜日に設定されているので、父母ともに参加できてありがたいと思う」「行事の数も適当であると感じるし、基本土曜日なので参加しやすい」「事前に教えてもらえるので仕事の調整がつけやすくなり助かる」などのほか、行事の日程等における各家庭の就労等への配慮について、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	45	9	0	1
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が16.7%となっている。 自由意見は16件で、「毎日のお迎え時に園での様子を説明してくれ、個人面談では1時間に及びしっかりと園での過ごし方を話してもらい信頼している」「お迎え時その日の様子を伝えてくれ、一人ひとりをよく見ていてとても信頼できる先生たちで、気になることがあれば連絡帳での相談も可能である」「連絡帳でも迎えや送りの時でも相談しやすい関係である」などのほか、職員の対応の差やコミュニケーション機会の確保などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	50	5	0	0
「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が9.1%となっている。 自由意見は16件で、「新しい園ということで非常にきれいで、数年経ってもきれいさを維持できている」「清潔に掃除されて、かつ、整理されているように感じる」「とても清潔できれいで、いつも先生が掃除をしてくれている印象である」などのほか、施設内の清掃や衛生管理について、さらなる配慮を望む内容が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	51	2	2	0
「はい」が92.7%、「どちらともいえない」が3.6%、「いいえ」が3.6%となっている。 自由意見は16件で、「満点である」「皆笑顔で丁寧に接してくれる」「何でも相談しやすい、話しやすい先生ばかりである」「先生たちの個性が出ている感じの服装が好きで、嫌なことを言われたりしたこともなく、安心している」「違和感を感じたことはない」などのほか、職員の接遇や身だしなみ等について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	48	3	3	1
「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が5.6%、「いいえ」が5.6%となっている。 自由意見は15件で、「細かく状況を説明してくれ、必要があれば病院に連れて行ってもらったこともあり、対応が丁寧なのでかなり信頼している」「言われなければわからないような傷程度でも毎回報告してくれる」「そのつど報告があり、翌日も気にかけてくれてうれしく思う」「適切に対応してくれている」などのほか、ケガ等の把握や保護者への連絡などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	38	11	0	6
「はい」が77.6%、「どちらともいえない」が22.4%となっている。 自由意見は13件で、「友達同士のトラブルが起きた経緯、保育者の対応について、丁寧に説明してもらい信頼している」「当時の様子を詳しく教えてくれている」「お互いの気持ちに寄り添い対応していると感じる」などのほか、子ども同士のトラブル等の把握や対応などについて、さらなる配慮を望む内容が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	50	5	0	0
「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が9.1%となっている。 自由意見は11件で、「無理強いをせずに子どもに寄り添った保育をしている人が多いと思う」「本人の意見を尊重して向き合ってくれている」「保育方針も子どものペースに配慮し安全を考慮しつつも、自由と興味を最優先にしてくれていると思う」「赤ちゃん返りやイヤイヤ期のメンタルにも細かく対応してくれている」「誠実に向き合ってくれている」などのほか、子どもの気持ちを大切にされた対応について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	44	6	0	5
「はい」が88.0%、「どちらともいえない」が12.0%となっている。 自由意見には「どの先生と話していてもいつも誠意を持っていることが感じ取れ、信頼している」「気になったことは特にない」「守ってくれないとは思ったことがない」など6件が寄せられている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	51	4	0	0
「はい」が92.7%、「どちらともいえない」が7.3%となっている。 自由意見は7件で、「いつもお迎えの時に説明してもらい、また個人面談の時間に詳しい様子を説明してもらい、理解できている」「見学や説明書など、きちんと資料や説明があるのでわかりにくいと思ったことはない」「保育園の規則も細か過ぎることもないし、保育内容の伝達も簡潔でわかりやすい」「細かく教えてくれている」などのほか、子どもの成長発達や日頃の生活、保育内容等への保護者との共有について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	45	5	0	5
「はい」が90.0%、「どちらともいえない」が10.0%となっている。 自由意見には「何度か対応をお願いしたことがあるが、いずれの場合も要望後、適切に対応してもらっている」「何か要望があって伝えると快く対応してくれて助かっている」「アンケートで書いたことに関して、改善や対応してくれた」「すぐに対応してくれる」「きちんと対応してくれている」など10件が寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	35	10	1	9
「はい」が76.1%、「どちらともいえない」が21.7%、「いいえ」が2.2%となっている。 自由意見には「貼り紙をしている」「はい、掲示板に掲載されている」「まだそこまでのことはない」の3件が寄せられている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	評点(〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	評点(〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/> 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	評点(〇〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/> 非該当
	カテゴリ1の講評	
	<p>法人共通の理念・方針や保育実践の具体的な特色を、保護者や職員に周知させている</p> <p>「すべての子どもの最善の利益のために」を法人の基本理念として、心身の調和的発達と基本的な生活習慣の育成などを掲げる保育の基本方針を定め、傘下の全園で、子どもの主体性を尊重し、一人ひとりの存在自体を認め、「誉める」こと、異年齢の関わりなどを大切に保育を提供している。保護者には見学や入園の際にこれらを説明するとともに、毎月の園便りや年2回設ける保護者会で、前述の法人の保育のエッセンスを、内外の保育・教育理論とも関連づけながら伝えている。職員には採用後の法人による研修を通じ、理解と現場での実践が促されている。</p> <p>法人の目指す保育の実践と、職員も保護者も互いに認め合える環境づくりに努めている</p> <p>新入職員には法人の主任会が、上記の系列園共通の保育の柱とするものを、実践の観点で具体的に学ぶ機会を設けている。園内でも毎月の職員会議を通じ、園長・主任が「誉める」保育の実践などにおいて望まれる視点や挙措動作など、現場に求める認識や行動を、事例の共有や話し合いなども交えつつ伝えている。また4月の会議では「対話」「落ち着き」を年度の園目標に定め、その実践を促すための啓発も継続的に行っている。職員にとって、また保護者にとっても心理的安全性の高い組織・園であることを重視し、左記の「対話」の促進もその一環としている。</p> <p>現場の主体性を促しつつ種々の意思決定を行い、必要な情報を関係者に周知させている</p> <p>毎月行う各階のフロア会議で、保育や子どもなどの実務の話題を話し合い、上席者によるリーダー会議や、出席可能な常勤者が集う毎月の職員会議でそれらを共有し、園全体の意思決定を行う仕組みとしている。また日常の実務的な判断をなるべく各フロアリーダーを中心とする現場に委ね、主任がそれを統括する体制とすることで、業務の滞りない実施と現場の主体性の発揮を促している。会議の欠席者などへの必要な情報の周知は、議事録や毎日の朝礼、各クラスでの伝達などによって行い、保護者には主にアプリでの配信により、各種の重要事項を伝えている。</p>	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>6/6</b>
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
<b>評価項目2</b> 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>園・法人の中・長期的な方針・重点課題のもとで、年度の事業計画を作成している</p> <p>来年度までの4か年の中・長期計画に、利用者・職員に「選ばれる園」として長期的な安定経営を実現することなどを「目指すべき目標」とし、「地域に選ばれるための魅力発信」「未来に向けた組織運営」の各分野で取組項目を定めるとともに、年度ごとの取組内容を進捗表に示し、各年度末に成果や実況を踏まえた加筆修正を追記している。法人の「中長期・短期事業計画」も別途作成され、法人及び事業環境の現状を踏まえた「最重点課題」と取組事項、目標水準や達成の時期が示されている。これらの各計画を踏まえ、園の年度の事業計画を作成している。</p> <p>各期間の実務的な業務計画も作成され、各計画には保護者・職員の意向も反映させている</p> <p>事業計画には、運営及び組織、保育・食事や安全・保健衛生、人材育成・保護者支援などに関する年度の取組が列挙されている。また各分野に関する実務的な業務計画も作成され、年間及び各期間で、目標・ねらいや具体的な取組内容等を定め、年間保育計画の4半期ごとの評価・反省など、必要な新緑確認のもとで実施されている。各計画には保護者や職員の意向も反映され、保護者の声は日常の交流・面談のほか、行事後の感想収集や年2回の保護者会など通じ、また職員の意向は前述の各会議のほか、園長との面談や日頃の業務内外の会話などから把握している。</p> <p>地域の状況や行政・業界の動向の把握と、園の経営状況の管理の仕組みを整えている</p> <p>入園希望者等の見学の受け入れの際に、来園する未就園世帯から、会話を通じて教育や子育てなどに関する地域内の傾向などを把握し、第三者委員を委嘱する地元の自治会長とも、地域の状況について情報交換を行っている。また関連する行政の政策・制度などに関する情報を、小金井市の私立保育所園長会や同市及び東京都の各種発信物などから収集し、法人内の系列園園長会でも関連の情報が随時伝えられている。園の予算の策定や収支・稼働率などの経営状況の管理や主に園長が担い、毎月の法人内の園長会で法人本部や系列各園との共有を行っている。</p>		



カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
<p>法人共通に求められる種々の規範・倫理について、各職員への啓発がなされている</p> <p>就業規則や法人共通の「職員の心得マニュアル」に、子どもの人権の尊重や機密保持の厳守を含め、法人の職員としての各種服務規律が定められており、職員にはこれらをもとに、入職時の初期教育がなされている。また毎年度全職員が行う「振り返りシート」による自己評価でも、園長・副園長には現場の統率者としての姿勢・能力、一般職員層には組織の一員としての種々の行動特性と、「誉める」「笑顔」「美しい仕草・丁寧に物を扱う」などの法人の保育における基本心得について、それぞれ法人の理念・方針等を踏まえた振り返りが行われている。</p> <p>不適切な保育の排除と、家庭での虐待等の早期発見・防止の仕組みを整えている</p> <p>いわゆる不適切保育の防止のための法人共通のガイドラインを園内の各所に掲示するとともに、全職員が法人策定のチェックリストに基づく内省を毎月行い、日常の子どもへの言動を振り返っている。また子どもへの関わりを含む保育者としての種々の倫理観について、経営層からの会議での啓発や書面の回覧も随時なされている。虐待の早期発見・防止に関する法人・小金井市の各マニュアルの常備や、4月の会議での関連の啓発などにより、家庭での虐待等の発生に備えるほか、事案が生じた際の組織内の情報共有と行政機関との連携の体制を整えている。</p> <p>保護者の個別の意向への対応や、地域の社会資源としての各種取組もなされている</p> <p>苦情解決制度の整備や「ご意見箱」の設置、日々の交流・面談など、多様な方法で保護者の意向を把握し、案件に応じた個別の相談などによる誠実な対応に努めている。またホームページや市の各種媒体を通じた情報発信、実習生や大学生・高校生のボランティアの受け入れや、入園前見学で来園する未就園家庭への相談対応など、透明性向上や実施可能な地域支援にも取り組み、市の私立保育所園長会を通じ、市内の保育施設間の交流・連携にも参画している。来年度からの一時保育の実施も想定するなど、地域への機能還元の段階的な拡充も視野に入れている。</p>		

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>園外活動中の安全確保や各種災害など、種々の重要リスクへの対策に取り組んでいる</p> <p>広大で来園者も多い公園に近く、近隣には狭く人通りの多い公道も散在することから、園外活動中の安全確保に注力し、職員会議で散歩時の安全上の配慮事項等を確認するほか、散歩中の状況を想定した不審者訓練を年2回実施している。また毎月の避難訓練では早朝から延長保育までの各時間帯を想定し、災害時の諸対応や保護者との連携を確認している。所定の点検表に基づく園内の各室各所と園庭の安全確認もなされほか、災害・感染症に関する各BCPと、安全・保健衛生に関する活動全般を定めた「安全に関する事項についての計画」も作成されている。</p> <p>事故やヒヤリハットの共有・考察など、日常の安全確保に向けた取組を行っている</p> <p>子どものケガ等の事故後には、関係職員間で状況確認と原因・対策の考察を行うとともに、朝礼・会議での報告や、看護師による集計と発生傾向等に関する現場への啓発により、予防と再発防止に努めている。ヒヤリハットも同様に把握と検証・共有に努め、会議で事例の詳細や防止対策の共有を図っている。法人が発信する系列各園の事例も随時閲覧されるほか、重要な事例については園長が会議で注意喚起を行っている。園舎内外の各所へのカメラ設置と事務室のモニターでの常時監視もなされており、防犯対策や事故後の検証などに活かされている。</p> <p>各種情報の適切な取り扱いと漏洩防止のため、環境整備や関係者への啓発がなされている</p> <p>情報端末・ソフトウェア類のログイン制限や重要書類の施錠管理など、情報漏洩の防止のための種々の措置を講じるほか、個人情報及び文書の管理・利用、開示・訂正等の請求への対応などについて、法人が関連の各規程やマニュアルを整備しており、職員には入職時などに関連の啓発がなされている。また保護者には入園時の説明の際に、各種情報の利用目的や、行事等での私的撮影物の取り扱いにおけるプライバシー保護への配慮について、説明と同意確認を行っている。実習生・ボランティア等には、受け入れ時に守秘義務の厳守を求めるところとなっている。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		12/12
評価項目1		
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2		
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3		
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4		
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-5の講評		
<p>法人と系列各園が連携して人材の確保に努め、園内の状況に即した配置を行っている</p> <p>職員の募集・採用は、法人内の担当委員会が戦略・計画立案を担い、傘下の各園の協力のもとで、養成校・関連業者を通じた求人や法人サイト・各種SNSの活用、在職者への人材紹介奨励など、多様な媒体・方法による人材確保に努めている。法人の人事委員会が各園の状況を踏まえた配属・異動を行い、園内では各階の子どもや保護者の状況を踏まえ、保育の安定継続や、各階のチームとしての能力発揮と育成などを考慮して人員を配置している。また後述の園長との面談などにより、これらの人事に関することを含め、各職員の意向の把握がなされている。</p> <p>各職員のキャリア形成や能力・意欲の向上を支援し、労働環境の各種整備を行っている</p> <p>「職員のキャリアプランについて」に、入職後のキャリア形成のモデルや職責・経験年数及び研鑽等の目安を示し、年度の事業計画・研修計画に、人材育成と内外の研修・OJTの概要を定めている。また一般職員層には法人共通の「振り返りシート」により、所定の項目に関する自己評価と年度の振り返り、次年度の目標や受講すべき研修の設定を行い、園長との面談による助言・支援がなされるほか、同シートに準拠した人事評価を処遇や人事の参考とし、意欲の向上を促している。各種労務管理や全職員対象のストレスチェックなどの仕組みも整備されている。</p> <p>法人内の多様な研鑽や会議での話し合いが、園の保育の質や現場の同僚性を高めている</p> <p>法人の保育の柱とする「誉める」保育について、当園を含む系列各園を職員が往来し、現場の視察とその後のカンファレンスにより、知見や技術を高めるほか、外部機関と提携した階層別のオンライン研修も設けられている。国のキャリアアップ研修等の外部の研修と併せ、これらの内外の研修で各人が得た学びは、毎月の会議での報告などによって組織内に伝えられる。各階のフロア会議を中心に、保育や子どもに関する話し合いと課題解決が随時なされており、職員会議でも事例をもとにグループ討議を行い、子どもへの援助等に関する共通理解を深めている。</p>		

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
カテゴリー7	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>昨年度の事業計画では、重点事業として、保育内容の充実・質の向上、人材確保、人材育成(研修)、地域との連携・保護者支援、施設整備の維持管理と健全経営について、それぞれ方針・取組を設定するほか、例年の経営状況や園の立地環境を踏まえ、園児募集と騒音対策についても同様に定めた。</p> <p>保育の充実と人材育成については、法人の設ける「誉める」保育に関する系列各園での研修に、年間を通して職員を参加させるとともに、外部機関によるチームビルディング(組織のチーム力向上)に関する研修も年2回実施した。</p> <p>「誉める」保育に関する研修については、なるべく多くの職員が参加できるよう受講者を選定するとともに、シフトの調整等によって体制を整え、各人の法人の保育者としての知見や技術の向上を促した。また参加後に提出される、写真も活用して学びの詳細を伝える報告書や、会議での報告により、組織内で成果を共有できるようにした。チームビルディング研修では、後掲の「評価項目2」に記載の内容を通じ、職員間の関係性向上や、保育などに関する園・法人の理念・方針等に関する共通理解の促進を図った。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>人材確保については、年度後半を中心に、職員への紹介の奨励のほか、募集広告の制作と近隣地域へのポスティングを実施し、今年度の2名の採用にも結びつけている。また地域との連携・保護者支援における取組として、保護者との個別の面談では、感染症への不安に配慮し、リモート形態も選択可能として、対話の場の確保を図るほか、今年度は近隣の小学校や農家にも、それぞれ働きかけを行い、5歳児の小学校訪問や運動会行事で会場の借用、収穫体験の実施について、いずれも実施につながっている。</p> <p>経営層は上述の研修参加等の取組について、日常の保育の活動・環境の充実の充実が図られ、子どもたちも落ち着いて生活する様子が見られるなど、一定の成果が得られたと考えており、今回の職員自己評価でも関連する肯定的な意見がさまざまに寄せられている。また保護者支援についても、年間を通じて概ね良好な関係が維持され、今回の利用者調査でも、日々のコミュニケーションや要望・不満等への対応に関する質問で、80～90%台の支持が示されている。</p> <p>今年度は事業計画の書式が法人全体で改定され、保育分野については食事・安全・保健衛生についても重点事業を設定し、日常の取組に反映させている。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度は「思いやり」を園の目標の一つに挙げ、日常の現場の職員間のコミュニケーションの促進などを通じ、相互の協力・連携や同僚性の向上を促すこととした。開園2年目にあたる昨年度は、職員の新規加入によって組織の体制が改まったことも踏まえ、その前年度に注力した保育と運営の基盤確立をもとに、職員同士の対話や支援をより活発化させることを目指した。4月の職員会議でその旨を確認するとともに、リーダー会議では経営層が現場の状況を把握し、会議への啓発や職員への個別の支援を随時行った。職員会議では経営層から、「報・連・相」の促進や、他の職員に用件を伝えた後も状況の確認を怠らないことなど、コミュニケーション面で各人が意識すべき習慣・行動等に関する発信を随時行った。また提携する外部機関によるチームビルディング研修を2回設け、自己紹介や場を和やかにするためのアイスブレイクも交えつつ、グループ討議などを通じて、現場の課題や、保育などにおいて法人・園の大切にしているものなどに関する話し合いを行い、相互理解を深めた。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

経営層は一連の取組の成果として、日常の現場での先輩・後輩間の助言や相談等が促進されたと考えており、チームビルディング研修の主催者からも、現場の人間関係や同僚性などについて、概ね良好な状態が保たれているとの報告を受けている。職員自己評価でも「職員同士の仲がよい」「新人・ベテラン関係なく、意見を出している」など、組織のコミュニケーション環境等に関する肯定的な意見がさまざまに上げられている。今年度はこれらの成果を踏まえ、「対話(コミュニケーション)をたくさんしよう!!」を園目標に挙げ、昨年度注力した業務内外における職員同士の会話の促進に加え、子ども・保護者とも同様に対話の時間をより多く持つことを重点課題として、現場における日常の行動指針としている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-1の講評			
<p>地域の方々に対して、ホームページを通じた情報発信と、透明性の確保に努めている</p> <p>法人のホームページでは、保育理念・方針や、「誉める保育」による子どもの育ちや保育者の思い、その保育実践の具体的な内容を紹介するオリジナルの「コンセプトブック」や動画等が公開されるほか、0・1歳児と2歳以上児のそれぞれの一日の園での生活の流れと内容、年間の行事予定などの情報が掲載されている。各園のページでは、保育時間や休園日、定員や職員構成などの園の概要とともに、園へのアクセスマップを掲載している。また決算書類の情報開示や苦情解決の仕組み、園の自己評価の結果など、透明性の確保に努めている。</p> <p>行政との連携を図り、園に関するさまざまな情報を公開している</p> <p>市と園との連携を図っており、各種媒体を通じて園に関する情報を発信している。小金井市のホームページには、園の所在地と電話番号、園のサイトへのリンクなどが掲載されるほか、各園の定員別の募集人数の状況が随時公開されている。また入園を検討する方への情報提供として、入園案内には当園の理念や保育目標、異年齢保育や「誉める保育」、チームでの子どもへの関わりや援助など保育の内容・特色のほか、食事や年間行事、健康管理や延長保育の利用時間・料金などが掲載されており、ホームページ上での公開や市内各所での冊子の配付が行われている。</p> <p>園見学は少人数で受け入れており、詳細な説明とニーズに応じた情報提供を行っている</p> <p>園見学は利用希望者の都合と園の状況を踏まえて日程調整を行っており、平日の子どもたちの午前中の活動や食事の様子などをじっくりと見てもらえるよう、少人数での受け入れを行っている。当日は園のパンフレットを渡し、保育の方針やフロアごとの環境、職員集団での保育といった意図や内容を伝えたくうえで、各フロアを回りながら、子ども主体の保育や食事の提供の様子などを見て感じてもらい、補足の説明をしている。また、利用希望者からのよくある質問と園の回答をまとめた書類を配付することで、ニーズに応じた細やかな情報提供に努めている。</p>			



サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
<p>評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
<p>評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p>入園時の重要事項の説明と同意確認、利用終了後の支援の継続への配慮を行っている</p> <p>入園内定者には「入園のしおり」を事前に渡し、内容の一読を依頼している。入園前の説明では同じしおり等をもとに、保育の方針や内容、子どもの健康管理や園からのお願い事項など、要点をまとめて伝えることとしている。また質疑応答や補足の説明を行い、疑問点が内容にしたうえで、重要事項の説明や肖像等の利用に関する同意書を取得している。卒園・退園等の不安があれば送迎時の会話や面談などでフォローするとともに、退園・卒園の際、いつでも来てほしいというメッセージを添えた写真等のプレゼントを渡すなど、支援の継続性に配慮している。</p> <p>子ども一人ひとりの状況等を把握し、入園後の支援や保育に活かしている</p> <p>子どものこれまでの成育歴や健康状態、家族構成など、一人ひとりの情報を把握し、入園後の園生活での支援や保育に役立てている。保護者が記入した所定の書類をもとに、食事・睡眠・排せつなどの状況や家庭での生活リズム、既往歴や健康状態のほか、各家庭の要望や保護者の方針などを聴き取っている。年齢によっては離乳食の進み具合や咀嚼、食材の摂取状況などを確認している。その他、食物アレルギーや熱性けいれんなど特別な配慮を要する場合、専門職と連携し、個々の対応を行っている。これら把握した情報を職員間で共有し、保育開始に備えている。</p> <p>環境変化への順応に向け、子どもや保護者への個別の配慮と支援に努めている</p> <p>面談時には保護者と「慣らし保育」に関する相談を行っており、仕事の復帰時期や意向等を考慮し、スケジュールを決めている。子どもに負担がないよう、徐々に保育時間を延ばしながら、通常の保育へと移行しており、開始後に子どもの様子を保護者に伝え、個々の状況によって柔軟に日程を調整している。子どもの気持ちが落ち着くよう、入園直後はハグや抱っこをするほか、その後に園での好きな遊びが見つかるよう、一緒に室内の教具で遊んだり、園庭での遊びをしたりして、一人ひとりが好きな遊びを見つけられるような大人の見守りと援助に努めている。</p>		

サブカテゴリー3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 13/13
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている		○非該当
サブカテゴリ3の講評			
子ども一人ひとりの成長・発達状況を継続的に把握し、記録している 入園以降の身長・体重などの子どもたちの体格的な成長を、毎月の身体測定によって把握し、定期健康診断や歯科健診の結果などとともに記録するほか、連絡アプリによって保護者とも共有している。また心身の発達を、0・1歳児クラスについては毎月、2歳以上児クラスについては年4回、生活や人との関わり、言語、運動等の領域別の主な発達の現れを、月齢・年齢別の指標を用いて確認するとともに、個別の詳細な子どもの姿のほか、家庭の様子や事情、具体的な遊びや人との関わり方などについて、保育者の所感を文章で記述している。			
全体的な計画をもとに保育の各計画を策定し、実践後に振り返りを行っている 全体的な計画をもとに、年齢別の年間を4期で構成する長期的な指導計画を策定しており、年間目標・ねらい・期ごとの子どもの姿や領域別の予想される姿のほか、異年齢保育や保護者支援等について、育ちの目安や支援の考え方などを記載している。同計画を月・週の短期的・実践的な計画に展開するとともに、発達やその個人差が著しく、より細やかな援助を必要とする2歳児クラスまでは、個人別の指導計画を作成している。各計画は実践後に振り返りを行い、次につなげる仕組みとし、行事を実施する際の行事計画書や、食育計画書も作成している。			
職員間で子どもや家庭の状況を共有し、保護者に保育の意図や成長の見通しを伝えている 各階で「フロアノート」を用意し、職員会議・フロア会議の内容、保護者会の議事録、日々の保護者や子どもに関する情報などを記載して、職員間の情報共有を進めており、各人が目を通した後に押印することとしている。また保護者会を年2回実施し、年度前半の回では、1年間の見通しや発達の特徴を保護者に伝え、年度後半では次年度に向けた子どもの成長、活動を紹介している。毎年度秋には個人面談を実施して、園と家庭の様子を伝え合い、成長を共有し、相談に応じている。また園便りでも、保育の特徴や行事の意図などを伝えるようにしている。			

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>子どもの情報やプライバシーの保護、羞恥心への配慮に努めている</p> <p>子どものプライバシーの保護や羞恥心の芽生えへの配慮として、排せつや着替えの援助を行う際には、他者からの視線を遮ることができるよう、実施場所の配慮に努めており、幼児クラスでは衣類棚の配置を工夫して、周りや外から見られないようにするほか、子どもたちが自分で着替える際にも、意識できるよう、声かけを行っている。また排せつの失敗への対応の際にも、子どもの羞恥心や自尊心に配慮したさりげない援助を心がけている。子どもの情報を外部に提供する必要が生じた場合には、そのつど保護者に確認を取っている。</p> <p>子どもの最善の利益のため、一人ひとりの人格や意思等の尊重を心がけている</p> <p>子どもの最善の利益のため、一人ひとりの意思や主体性、選択の尊重などを大切にしている。それを支える職員の心得や大切にすべきことをマニュアルに定めるほか、年度当初及び随時の会議において、職員の所作や姿勢、声の大きさや見守りなどの指導と注意喚起を行っている。また不適切保育を防止するためのセルフチェックを定期的実施し、職員自らが子どもへの言動を振り返る機会を設けている。日常の中で気になることがあれば、フロア会議や屋礼等で話し合い、より適切な関わりや見守りとなるよう、職員の研鑽と意識継続の促しを行っている。</p> <p>子どもや保護者の状況の把握と支援を行い、虐待等に関する組織内の研鑽を図っている</p> <p>子ども一人ひとりの状況や保護者の意向等を聴き取り、それぞれの個別の支援と配慮につなげるとともに、職員会議での共通理解事項や屋礼の報告をすることで、園全体での認識共有と見守りに努めている。また、日本語のやり取りが難しい外国籍の方の場合は個別に手紙を渡したり、翻訳ツールを用いてコミュニケーションをしたりするなどの個別のフォローを行っている。会議にて虐待の種類や内容などの指導を行うほか、虐待防止月間にちなみ、資料をもとに家庭や学校等での児童虐待防止の課題等を伝えるなど、組織内の理解を深めている。</p>		

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>運営上で必要となるマニュアルを整備し、職員への周知と認識共有に努めている</p> <p>法人共通のマニュアルには、職員の心得や保育に関する事項、園外保育や健康・ケガ管理、不適切保育防止や虐待防止のほか、感染症対応や事故・危機管理、不審者対応などを整備している。会議において、食事中に嘔吐があった場合や緊急時の電話対応等の手順と流れ、写真撮影及び「ドキュメンテーション」や月案・週案・日案を作成する際のポイント、食育の進め方などのほか、熱中症の指針やインフルエンザ出席停止期間早見表などの周知と共通認識を図っている。またこれらはコミュニケーションノートに保管し、職員がいつでも活用できるようにしている。</p> <p>系列園及び各園での仕組みを見直し、改善・工夫をする仕組みを整えている</p> <p>各行事の実施後には保護者のアンケートを実施するとともに、行事担当による評価反省を行い、次年度に向けた課題点を引き継いでいる。会議の前には情報共有が必要な事項等を記録することで、限られた時間の有効活用と情報共有の合理化を図るほか、各会議においては手順等の周知だけでなく、グループワークや課題検討の時間を設け、組織内の認識や理解を深めている。系列園共通の手引き等は、行政の通知や各園の運営状況などを踏まえ、法人内の専門部会や各委員会などでの検討を経て見直し、変更された内容を各園に展開する仕組みとなっている。</p> <p>保育の内容や職員の所作等を高め、安全面のさまざまな対策を講じている</p> <p>「誉める保育研修」を通じて、互いを見合うことで良さと課題を明確にし、保育を高め合う機会とするほか、フロア会議では職員の姿勢や見守り、所作など、法人の職員及び保育者として大切にすることを確認しており、適切な叱り方や声かけ、事故防止等の観点での指導や啓発も行っている。また園庭での子どもの見守りや安全配慮のほか、散歩の効果と少人数で行う意味、散歩時のルールや安全配慮などを知らせている。さらに保育中での場面の移り変わりに基づくチェックリストを作成し、活動の切り替え時ごとで、園児の置き去り防止の確認を行っている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの興味・関心や発達を踏まえた環境の工夫や誉める保育に取り組んでいる</p> <p>各種会議・職員間の気づきの共有、保護者から把握する情報などから、子どもの興味や関心、発達の把握に努め、室内環境の工夫に取り組んでいる。子どもの様子を踏まえて教具を選別し、楽器など音の鳴る遊びと、絵本のコーナーの位置を離したり、片付けやすさを考慮したりするほか、子どもが自分で選び、手に取ることができるようにするなど、提示方法の工夫にも努めている。子どもが人との関わりを心地よく感じられるよう、保育者は笑顔での応答や、子どもの姿を「誉める」ことを大切に、安心感や自己肯定感、コミュニケーション力を高めている。</p> <p>異年齢の子どもたちの関わりの中で、年齢相互の育ち合いが促されている</p> <p>0・1歳、2歳以上児が、各階で生活と遊びを日々ともにするほか、園庭遊びや朝夕の保育では全年齢の子どもたちが一緒に過ごしている。年下児は年上児の姿を見て、教えてもらうことで、生活習慣の所作、言葉、遊び、コミュニケーションなどを身につけ、年上児にはお世話したり、教えたりすることを通じて優しい心が生まれ、自信を得たり、伝え方や関わり方を学んだりする機会となっている。発達の異なる子どもたちの間では、理解の違いなどから摩擦が生じることもあり、保育者は双方の気持ちや遊びを尊重しつつ、仲立ちや代弁などの援助に努めている。</p> <p>個別の発達に応じたトラブルや特性への援助と、5歳児の就学に向けた取組を行っている</p> <p>発達の過程で見られるかみつきや引っかきについて、子どもの状況を職員間で共有し、遊ぶ空間や職員の位置取りへの配慮など、未然の防止に努めるほか、言葉でコミュニケーションを行える子どもたちのトラブルでは、双方の気持ちを確認したうえで代弁や仲立ちを行うとともに、状況に応じ見守ることも大切な援助と考えている。また子どもの体質や発達の特性上、個別の配慮が必要な場合には、関係職員間で対応を協議し、個々の状態に応じた援助を行えるようにしている。5歳児の小学校訪問など、子どもたちの就学への期待を高める取組も行われている。</p>			

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登園時には視診や保護者との対話を通じて子どもの状態を確かめ、記録している

登園時には、受け入れを担当する保育者が、子どもと挨拶を交わしながら検温をするほか、目に見える範囲のケガの有無や顔色・機嫌などを確認しており、視診時の情報や、保護者から伝え受けた家庭での様子等の連絡事項は、「受け入れ・引渡表」に記載し、職員間で共有している。また連絡アプリに保護者が入力した情報のうち、全体共有が必要なものは、朝礼にて伝え合い、内容を記録している。日中の子どもの様子は、適宜職員間で共有するほか、保護者へ伝達が必要なものについては、上記の記録簿を用いて確実に伝達できるようにしている。

休息を取れるよう配慮し、降園時には子どもの姿や活動の様子を保護者に伝えている

一日を通じて休息を取れるように、子どもが眠りたい様子がある場合には、寝具と場所を用意している。3歳以上児の午睡については、全員が取るものではなく、各自が睡眠のリズムに応じて取れるようにしている。睡眠時には、SIDS対策として、顔色や体温、体勢、鼻水の有無などを定期的に確認して記録に残している。降園時は「受け入れ・引渡表」や朝礼の内容を踏まえて対応し、0・1歳児は連絡アプリを用いて様子を伝え、2歳以上児については、毎日写真にコメントを付した「ドキュメンテーション」を掲示して、活動の様子を伝えている。

生活習慣の習得への援助は、子どもの発達や意欲を踏まえ、保護者と連携して行っている

排せつの自立や衣服の着脱のほか、食具の使い方、ものの片付けなど、暮らしの中にあるさまざまな所作を身につけられるよう、保育者は子どもたちの身体機能の発達や理解度、意欲を踏まえたうえで援助している。初めは子どもと一緒に言いながら、手順やコツ・理由などを保育者が言葉にして伝え、自分で行おうとする意欲が見られた時にはその姿を誉め、自信や自己肯定感を持てるようにしている。また保護者との連携にも努め、日々の対話や個人面談を通じて、子どもの情報を伝え合ったり、衣服などの準備などの協力を呼びかけたりしている。

3 評価項目3		日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている				○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している				○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している				○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている				○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている				○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している				○非該当
評価項目3の講評					
<p>感触遊びや制作活動など、子どもたちの感覚や感性を育む活動が行われている</p> <p>氷や寒天、片栗粉・新聞紙などを使った感触遊びを探り入れ、子どもの指先の感覚を養っている。制作活動は表現力を育み、道具の使い方や表現技法を体験するだけでなく、季節の事象に触れることも目的としている。実施する際には子どもたちが選べるよう、複数の色を用意したり、個々の表現や制作のスピードなどを尊重したりするほか、少人数で取り組むことを基本としている。英語は異文化に触れることや英語への親しみを育てるようすることをねらいとし、歌を歌ったりゲームを行ったりするほか、簡単な挨拶や天気などを通じたやり取りも楽しんでいる。</p> <p>言葉の感覚を養う援助や、言葉のやり取りを楽しめる活動に努めている</p> <p>子どもの発語を促せるよう、保育者は援助や遊びの際に、状況やものの名前を言葉にして伝えており、子どもから「これ何」という問いが現れた場合には、応答的なやり取りを通じて、ものと名前が一致するように援助している。遊びでは手遊び、紙芝居や絵本の読み聞かせ、「お名前呼び」などを行い、絵本を手にとれるようにするほか、幼児クラスでは、かな文字の表や文字や言葉への興味を促す教具を用意している。また言葉のやり取りを楽しめる、ままごとなどの再現の遊びのほか、幼児クラスでは、年間を通じてオペレッタにも取り組んでいる。</p> <p>戸外活動を通じて四季を感じたり、ルールのあるゲームを楽しんだりしている</p> <p>園庭では、固定遊具や砂場で遊ぶほか、虫の探索や観察を楽しみ、野菜の栽培に取り組んでおり、苗植えや水やりを通して植物の成長を身近に感じられるようにしている。散歩は、花を見たり、木の実や落ち葉を収集したりするなど、視覚的・触覚的に季節の移ろいを感じる機会となっており、低年齢児でも自然現象に気づけるよう言葉による働きかけを行うようにしている。公園等に出かける「園外活動」は、追いかっこや鬼ごっこなどの簡単なルールのあるゲームを楽しんだり、みんなでお弁当を食べたりするなど、いつもとは異なる特別な日となっている。</p>					



4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は企画書を作成して実施し、「夏祭り」は縁日の雰囲気を保護者と楽しんでいる</p> <p>行事を行う際には企画書を作成してねらいを明らかにし、実施後に反省を行って次につなげられるようにしている。保護者へのアンケートも実施し、結果は集計して、保護者からの提案や要望など、今後の参考にできる意見を抽出し、改善に活かしている。「夏祭り」は土曜日開催とし、保護者も参加のうえで実施し、制作やゲームのコーナーを設け、親子で縁日の雰囲気を楽しみ、盆踊りも行っている。制作やゲームは、日々の保育では体験できない要素のものを採り入れるようにするほか、子どもの発達に応じて難易度を変えるなどの工夫も行っている。</p> <p>「もりんびっく」や「フェスティバル」は、発表を通じて達成感を得る機会となっている</p> <p>「もりんびっく(運動会)」では玉入れや障害物競走、親子競技・リレーなどに取り組んでおり、一つの目標に向かってチームで協力し、成し遂げる喜びが得られている。年度後半に実施する「フェスティバル」は、自分なりに表現することを楽しみことを目的とし、2・3歳児ではオペレッタや親子遊びを、4・5歳児はオペレッタのほか、ファッションショーや制作、構成遊びなど、自分の好きなものについて、頑張ったところや自慢したいところを発表している。また発表に向けて協力したり工夫したりする機会も、子どもたちに達成感や自信をもたらしている。</p> <p>季節の行事や園外保育など、子どもたちのさまざまな体験の機会が設けられている</p> <p>季節の行事では、絵本や紙芝居を用いて意味や由来を伝えるほか、行事の象徴物をテーマにした制作を行ったり、歌を歌ったりし、行事食も提供している。また七夕の際には本物の笹を飾り、保護者の協力を得て短冊をかけたり、クリスマスにはツリーを飾りつけたりするなど、園舎内の雰囲気づくりにも取り組んでいる。5歳児が「ぞう組園外保育」でプラネタリウムに出かけるなど、各学年で園外保育をさまざまに設け、普段とは異なる遊具で遊び、自然探索、お弁当の体験を通して、子どもたちが関係性を深めたり、興味や関心を広げる機会となっている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間が長くなる子どもたちが健康的に過ごせるよう配慮している</p> <p>長い保育時間を健康的に過ごせるよう、登園時には視診を行って、子どもの体調を確かめ、日中においても、職員間でも子どもの健康状況を伝え合うほか、適時水分補給を促し、幼児クラスでは水差しを用意し、自分で飲めるようにしている。また体調や生活リズムに応じて、身体を横にして休めるよう、カーペットを敷いたり、クッションを用意したりするほか、睡眠は子どもの必要に応じて取れるよう、時間と場所を確保している。心身の緊張を緩め、リフレッシュできるよう、夕刻も園庭に出ることもあり、身体を動かし、外気に触れて気分転換を図っている。</p> <p>子どもたちの情緒面への配慮や飽きずに楽しく過ごせる工夫に努めている</p> <p>子どもたちの情緒面への配慮に努めており、保護者の帰りを待つうちに寂しくなったり、気分がすぐれないような場合には、保育者がスキンシップを図ったり、1対1でゆっくり話をしたりしており、延長保育時には食事している子どものそばで温かく見守り、家庭的な雰囲気の中で食事をするようにしている。また子どもたちが保育室内・園庭など自分で活動を選択できるようにするほか、延長保育では室内に設置している教具だけではなく、特別に教具を提供するなど環境面の配慮に努めるなど、一日を飽きずに過ごせるようにしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが主体的に食事に向かうことのできる環境を整えている</p> <p>食事を摂るタイミングは、登園時間が異なる保育所の特性を踏まえ、基本11時から13時の間であれば、子ども自身が空腹の具合や遊びの切れ目などを踏まえて、自分で決めている。食べなくなった子どもは、手を洗い、着座して保育者から名前を呼ばれるのを待ち、よそってもらったものを自分で運び、食後には下膳も行っている。料理を盛りつける際には、保育者は子どもと対話して、食べられる量を聴き取るようにしており、子どもが自分で伝える力を身につけ、盛りつけてもらったものを食べること、達成感を得られるようにしている。</p> <p>食物アレルギーへの対応や離乳食など、安全な食事の提供に努めている</p> <p>食物アレルギーを持つ子どもへの援助では、医師による生活管理指導表をもとに対応している。提供に際しては、誤配・誤食の防止に向け、専用のトレーや食札を用いるほか、各段階において複数名で確認し、着座の位置も考慮しており、アレルギー対応食のおかわり分も用意している。誤食だけでなく、個食の防止を目的に、職員がそばにつき、対話しながら食事ができるようにしている。離乳食の提供においても、咀嚼や食材の経験を踏まえて段階を決め、保護者と相談・協議のうえで、未食食材を家庭で体験してもらったうえで進めるようにしている。</p> <p>子どもが食事や食材への興味や意欲を高める食育活動を実施している</p> <p>子どもが食事や食材への興味や意欲を高める食育活動を実施している。近隣の農家の協力を得て、小松菜の収穫体験を行うほか、園庭でもピーマンやミニトマトなどの夏野菜の栽培に取り組み、苗植えや水やり、観察を体験している。また年齢に合わせた調理活動にも取り組んでおり、4・5歳児は自由参加の「親子パン教室」を実施し、こねる・成形する工程を体験している。保育者は日々の食事を一緒に摂る中で、会話を楽しみ、食事のマナーを伝えており、小松菜の収穫後にはレシピを保護者に配付するなど、親子で食に興味を持てるよう配慮している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが健康や衛生的な習慣に関心を持てるよう、さまざまに取り組んでいる</p> <p>日頃から生活の場面ごとで手洗いに取り組んだり、衣服の調整や水分補給などを行ったりするなど、子どもが自分の健康や衛生的な生活習慣に関心を持てるよう、さまざまに取り組んでいる。また、歌や紙芝居を用いて手の洗い方を確認したうえで、手洗いの実践を行うとともに、5歳児は機器を用いた洗い残しの確認をするなど、年齢に応じた内容でわかりやすく伝えている。歯磨き指導の際には模型と指導用歯ブラシ、絵本等を用いて、歯の磨き方のポイントやうがいの大切さなどを説明するほか、安全に取り組めるよう、歩きながら行わないことも伝えている。</p> <p>専門家や保護者との連携を図り、子どもの発育や健康面の管理を行っている</p> <p>定期的な健康診断や歯科検診、身体測定を実施し、結果の記録・管理を行うとともに、保護者には連絡アプリで結果を知らせたり、必要に応じて病院受診を依頼している。また、子どものケガや発育、感染症など気になる事項があれば、囑託医に相談できる体制を整えるほか、近隣の医療機関との連携にも備えている。日々の子どもの健康状態は口頭伝達及び連絡アプリで保護者から把握し、フロア担当及び看護師がその日の健康管理に努めており、日中の体調変化やケガ等の際には看護師と連携しながら必要な対処やケアを行っている。</p> <p>保護者に対して、感染防止や安全対策などの情報提供を行っている</p> <p>入園時及び年度当初には生活リズムの大切さや子どもの健康管理、感染症・アレルギー・投薬に関するお願いごとなどを知らせている。また「ほけん便り」を毎月発行しており、季節ごとの家庭で役立つ保健・安全及び子どもの健康管理やケアなどの情報、感染症やSIDSなどの留意点、園で実施した子ども向けの保健指導や、職員のSIDS発生時対応訓練の様子などの情報提供を行っている。近隣の感染症の発生状況は必要に応じて保護者に配信しており、園内で感染症が発生した際には、玄関フロアでその状況を掲示し、保護者への注意喚起を行っている。</p>		

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

各家庭の事情の把握と支援に努め、子育てや就労の両立への配慮を行っている

保護者の子育てや就労等の個々の事情は、入園時とその後の個人面談、送迎時のコミュニケーションや連絡帳のやり取りなどで把握しており、園として可能な配慮や支援に努めている。また職員間で情報共有を図ったうえで、フロア担当のみならず、園全体でのフォローアップに努め、随時、子育てや子どもに関する事項の相談にも応じている。各家庭の状況に合わせ、延長保育や土曜日の利用に対して、柔軟に対応するほか、希望制の紙オムツの定額利用サービスの提供、連絡アプリでの保護者との連携や各便り・動画の配信など、利便性の向上にも配慮している。

園と家庭との相互の理解を深めるため、さまざまな取組や工夫を行っている

個人面談では事前に保護者の聞きたいことを確認したうえで、園での子どもの様子を具体的に伝えたり、家庭での様子を聴き取るなどして、子どもにとってより良い方向へと役立てたり、保護者との信頼関係を深める機会としている。またフロア便り等を通じて、子どもの姿や様子を伝えるほか、保護者会では動画・写真や資料などを活用し、保育の方針や具体的な内容、子どもたちの姿などを保護者と共有している。さらに保育参加では日頃の室内や園庭での活動を見て、園での遊びやリズム活動を一緒に体験してもらうなど、さまざまに取り組んでいる。

行事参加を通じて子どもの育ちを共有し、保護者同士の交流にもつなげている

年間行事予定の配付と開催前の案内などを行い、保護者が見通しを持って行事に参加しやすいよう配慮しており、夏祭りや「もりんびっく(運動会)」等の参加の際に子どもの様子を見てもらうとともに、親子や各家庭の関わりが持てる機会となっている。保護者会の際にはグループに分かれて意見交換や悩みの共有などを行っており、保護者の子育ての一助やリフレッシュとなるよう、講師を招いた育児講座も開催している。今年度は親子パン教室を開催し、講師の方に作り方を教えてもらいながら親子で作っており、各家庭同士の会話や交流にもつながっている。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>園外保育では子どもが交通ルールを学んだり、多様な体験を楽しむ機会となっている</p> <p>季節ごとで園外保育を行っており、春の時期には4・5歳児がそれぞれ小金井公園まで徒歩で出かけ、自然探索や大型遊具などで遊ぶほか、弁当を食べるといった体験が得られている。また秋の園外保育では3歳児が近隣の公園まで歩き遠足を行うほか、4・5歳児は多目的施設で身体を動かした遊びを楽しんでいる。さらに5歳児は園バスを使用して多摩六都科学館まで出かけ、集団で過ごすことの楽しさを味わったり、館内でプラネタリウムを見て星等への興味・関心を深めている。これらの体験の中で、交通ルールや公共の場所でのマナーなども学んでいる。</p> <p>地域の方との交流や職員以外の人との関わりが持たれている</p> <p>散歩の際には近隣の方と子どもたちが挨拶を交わすほか、子どもの誕生日には保育者と一緒に花屋に出かけ、会話や買い物のやり取りをしたり、誕生日を祝ってもらったりするなど、地域の方との交流を図っている。また保育士養成校の実習生や高校生の職場体験などを受け入れ、子どもたちが一緒に生活や活動を行っている。日頃から外部講師の英語・表現活動を採り入れており、やり取りをしながら他国の言葉等にふれたり、さまざまな素材を用いて表現することを楽しんだりするなど、職員以外の人との関わりと豊かな体験の機会を設けている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	親子での体験や交流の場と、多様な媒体を活用した情報発信の充実を図っている	
内容①	園・フロア便りや懇談会、「ドキュメンテーション」等を通じて、保育で大切にすることや職員の思いなどを発信するとともに、子どもたちの日頃の姿や活動の内容、子ども同士の関わりなどを保護者に知らせるなど、多様な媒体を活用した情報発信に取り組んでいる。行事後のアンケートで保護者の意見等を把握し、職員間で共有したうえで次の企画の際の検討に役立てるほか、今年度は新たに親子での体験や活動の充実を図っており、講師を招いた親子パン教室を開催したり、2歳児と保護者を対象として、市内の農園で小松菜の収穫体験を行っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル②	保育実践や安全配慮など、組織内での研鑽とさまざまな啓発に取り組んでいる	
内容②	「誉める保育」研修によって自園の保育を高めるとともに、リーダー層でその振り返り方園の課題と強化すべき点を洗い出し、個人及びフロアで意識して改善と工夫を重ね、目指す保育実践により近づくよう努めている。また、フロア会議では職員の姿勢や見守り、声の大きさや所作などの再確認をしている。その他、アクションカードやAEDを用いた緊急時を想定した実践的な訓練を行ったり、熱中症の対応フローの周知や保育場面ごとの人数確認の徹底を促すほか、室内・園庭など保育中の安全配慮や危険察知の意識啓発など、安全面の強化にも注力している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
タイトル③	組織として思いを揃え、目指す保育を実現すべく、経営層が積極的な啓発を行っている	
内容③	今年度の園目標を「対話」「落ち着き」とし、4月の職員会議で共有を図るとともに、「対話」については年度後半にも再度確認している。職員同士の会話や子ども・保護者との対話の促進を旨とし、経営層が折々に励行を促すほか、「落ち着き」は現場の保育における指針として、毎月各階で目標を設定し、子どもが落ち着いて遊びや活動に取り組める物的・人的環境の整備に努めている。毎月の職員会議では不適切保育の防止をはじめ、園長が運営における園の方針を書面とともに職員に発信し、主任からも規律・規範の徹底などに関する啓発が随時なされている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	日々の生活と遊びを通じ、子どもたちの意思の尊重と選択の自由の保障に努め、自己決定する力の伸長を支援している
	内容	生活と遊びを通じ、子どもたちの意思を尊重し、自らの意思で決める力を育てている。子どもが自ら遊びを見つけて満足するまで取り組めるよう、自由な活動を行える時間を確保し、遊びの様子から次の遊びの芽生えが見られたり、保育者の提案をきっかけとした興味・関心の広がりが見られる場合には、環境構成を随時見直し、道具や教具の入れ替え・追加を行っている。また子どもたちが室内と園庭を自由に行き来できるようにするほか、食事も所定の時間内であれば自分で食べたい時間に食べられるようにするなど、生活の中で自己決定の力を育てている。
2	タイトル	集団活動を通じたさまざまな体験によって、子どもたちの視野を広げ、規範意識の芽生えを促している
	内容	上記の自発的な生活と遊びを保障に加え、保育者の提案による集団活動の時間も採り入れており、朝の「おあつまり」のほか、造形活動やオベレッタ、ダンス・ゲーム、「もりんびっく(運動会)」でのリレーなど、さまざまな活動を行っている。集団活動は子どもの視野を広げ、喜びや協力を体験する機会となるほか、ルールがあることを知り、守ることの大切さを体験することを通じて、規範意識の芽生えも促されている。取り組む際には楽しむことを前提にし、苦手な子どもには無理はさせず、鬱陶気を感じられる場所での見学も参加の一つと考えている。
3	タイトル	多様な機会を通じて、子どもの育ちや園の保育の方針などへの理解を深めており、保護者への寄り添った支援と配慮にも努めている
	内容	送迎時の会話や個人面談など、担当と保護者とのコミュニケーションを図り、一人ひとりの状況を伝え合うほか、各行事で子どもの育ちやその時の興味のあるものを見てもらったり、保育参加を通じてより日常的な子どもの活動や姿を共有するなど、園の保育や方針への理解を深めている。また連絡アプリを活用した連携とお便りの配信、個別の事情に応じた利用時間の変更への柔軟な対応のほか、保護者会や育児講座など、子どもに関する話をしながら、保護者同士の懇談やリフレッシュの場を提供するなど、育児と就労等への多様な配慮もなされている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	日々の活動を伝える「ドキュメンテーション」を、園の保育の発信や現場の振り返り等により活かすための工夫に期待したい
	内容	写真とコメントで子どもの様子や保育内容を伝える「ドキュメンテーション」は、保護者からも好評を得ており、利用者調査の関連する質問での高い支持にも寄与しているものと思われる。ドキュメンテーションは、紙面構成や記述内容等の工夫、任意のテーマ・年齢等での集約などにより、長期にわたる子どもの成長や、保育の意図・つながりなどについて、保護者や入園希望者へ発信したり、保育の記録として現場の振り返りに活かすことも可能と考えられる。それらを念頭に置いた記載のあり方の検討や、日々の蓄積の整理・分類等の取組に期待したい。
2	タイトル	今年度作成の安全計画を、園の行う安全向上の諸活動を保護者に伝え、信頼関係をより深めるツールとしても活かすことを期待したい
	内容	今年度作成の「安全に関する事項についての計画」には、国の示す書式を踏まえ、園内外の安全点検や園児・保護者への安全指導、防災・防犯訓練や関連のマニュアル類の整備・周知など、安全向上に係る園の取組全般が定められている。利用者調査の安全対策に関する質問では、他の各質問と比較して支持率が相対的にやや低くとどまっており、同計画や計画に示されるさまざまな取組を、さまざまな方法・媒体によってより積極的に保護者に発信することで、不安の解消や相互理解の促進につなげることも期待される。
3	タイトル	中・長期計画を、作成当時からの内外の状況の変化や、年度の事業計画との連動などを意識して見直し、計画的な課題解決に活かされたい
	内容	一昨年度に作成された中・長期計画では、園児(利用者)・職員に選ばれる園となり、長期的な安定経営を実現することを「目指すべき目標」として、事業環境等を踏まえた各重点課題と、来年度まで4か年の取組の概要が定められている。園長による見直しや追記も一部なされているが、作成当時からの内外の状況の変化を踏まえ、経営層の協議のもとで、より実状に即した内容に更新することも一考されたい。また計画の期間をより見通しの利きやすい長さとしたり、構成も年度の事業計画との整合を意識するなど、計画的な課題解決に向けた工夫も一考されたい。